



アハメッド・ナスリ

2008年9月～2008年11月

国籍：チュニジア

道場：Tunisie Aikido

ナスリ氏は内弟子として所沢道場に二ヶ月間滞在しました。初めての日本滞在であり、この内弟子の経験を通して、合気道だけでなく多くの事を得たようです。

### 内弟子体験記

アハメッド・ナスリ

この手紙で、2カ月間に及ぶ小林道場での内弟子プログラムの成果を、報告致します。

私の滞在は2008年9月の小林道場40周年記念祝賀会に出席するところから始まります。

数か月に及ぶ本部での審査手続きを経て、2008年9月初旬に内弟子プログラムに参加できるようになったことを、とても嬉しく思いました。今、小林道場での2カ月に及ぶ内弟子生活、そして稽古を成し遂げて、その成果を皆さんにご報告したいと思えます。

第一に、小林道場の計画的で順序だった教え方に、感銘を受けました。稽古は定刻に始まり、定刻に終わる。道場生の全てが稽古しやすいように毎回同じウォーミングアップを行います。それぞれの稽古では、大抵一つの攻撃に対する技が何種類か行われますが、基本の技の全てを網羅した稽古ができるように、その技は日を追うごとに段階を踏んで変わっていきます。これは他の合気道道場と違うところであり、基本の技の決め手となるポイントに、多くの時間が費やされます。所沢道場と小平道場の技術の内容に差の無いことにも驚きました。

又、それぞれの稽古には座技をベースにしたものや、稽古の終了前五分間は、剣杖の稽古が行われます。剣杖に集中する時間を設けた稽古は、小林道場が他の道場と違う特長的なところだと思えました。加えて、稽古の終わり近くには自習の時間が設けられます。これは審査前の道場生にとって、必要な技の準備となります。各人の稽古に合わせ、上手く構成された教授法を持つ小林道場は、実際とても贅沢な学びの環境にあるといえます。

道場長が合気道を学びやすくしたことは、小林道場のネットワークで、道場生の増加に多大な貢献をしたことの一因となっているのではないのでしょうか。

この二ヶ月間、小林先生は、小林道場の合気道は何たるかを、良く見

て学ぶという素晴らしい機会を与えて下さいました。小林道場での合気道の教授法で感銘を受けたのは、円と流れるようなスタイルの稽古です。私は型より「猛稽古」のタイプでしたが、このスタイルは有段者の稽古には間違いなく効果的だと思いました。小林道場では、老いも若きも、初心者も有段者も、全て一緒に良い雰囲気の中かで稽古をしているように思われます。道場では、上下の隔てなく愛情を込めて指導するような雰囲気であり、そのためか怪我は驚くほど少ないのです。小さなスペースでかなりの人数が稽古をしても、殆ど事故が起こらないのは驚くべきことです。

小林先生はまた、小林道場の師範が道場生のすべてと、稽古をつけるように気を配っています。他のほとんどの道場の指導者と異なり、小林先生はすべてのレベルの道場生と組んで、巧みな技と「受け身」も披露し、技術的指導者としての手本を示します。この「謙虚な」指導の仕方のお陰で、あらぬ緊張をせず、間違っても大丈夫、周りはそれを温かく見守る、という雰囲気が作り出されています。道場生はじかに先生の手本となる受け身を、感じる事ができるのです。それは「演武会」でも同じです。小林先生は師範や若い内弟子の代わりに、各道場の道場生に受けをとらせます。これは他の師範では見られないことです。

道場の経験で他に気付いたことは、普段の子供たちの稽古に参加させて頂いたことです。若い合気道家に、稽古としつけを上手に教えていく方法には、特に感心しました。子供たちに合気道は楽しいものだと思わせながら、心身共に鍛えていくという方法は、小林道場は本当に進んでいると思います。

また、日曜日の大人の稽古で、若い合気道家がどんなに鍛えられていくか、目を見張るものがありました。上級者は時々自分の稽古を犠牲にしてまで、若い後輩に喜んで稽古をつけています。

他にも特筆すべきは、稽古前、稽古、そして稽古後の道場全体の雰囲気です。

全ての道場生が親切で礼儀正しく、道場の名を汚さないようお互い敬意を持って接しています。稽古の後はいつも、甘いものとお茶を囲み、和やかに親睦する場が用意されます。この稽古後の親睦会は道場をただの「稽古場」ではなく「クラブ」にすることに貢献しています。



私は道場の他のメンバーと、多くの行事に参加させて頂くという機会もありました。様々な行事では、道場生が楽しく参加できるようにする責任があり、それが小林道場の繁栄につながる重要な要因だと思いました。師範は道場生からとても尊敬され、すべての行事に道場生と一緒に参加します。師範は師弟の生活や行動を注意深く見守っていることもわかりました。

内弟子の経験では、うまく運営されている道場経営の内部事情も見せて頂ける機会を得ました。小林道場という一流の道場の成功の要因の一つは、表に出ない所にもあるに違いないと思いました。私は毎週恒例の道場の「内部ミーティング」にも出席させてもらい、このような組織が、経営上の問題を起こさずうまく運営していくには、どんなに多くの努力が必要とされるかがわかりました。実際、道場経営がうまくいっているのです。ほとんどの道場生には、先生方の努力は見えません。

また、道場や内弟子プログラムで色々とお世話をいただいた日本人内弟子の篠崎さんにも感銘を受けました。私の先輩の内弟子の方々が内弟子を卒業し、自らの道場を開き、将来の合気道の師範を育成する、そうした脈々と続く伝統があるのだと思いました。

内弟子と他の道場生と最も違うことの一つは、その技のレベルです。最初はずっと自由時間をとって、道場の膨大な書籍やビデオを活用しようと思っていました。残念なことに厳しい稽古、各道場との行き来、掃除の日課などで自由時間は殆どありませんでした。普段の食事の準備や、十分な睡眠をとることだけでも必死でした。

日本へ来て合気道の認識が深まったことは夢のようです。小林道場で夢をかなえたことは、決して忘れる事のない経験となるでしょう。小林保雄道場長をはじめ弘明先生、他の道場の先生方が、このような機会を与えて下さったことに心より感謝申し上げます。また、むすび基金の多大な援助を頂かなければ、このような貴重な体験もできませんでした。滞在期間中、指導や通訳をして下さった笠原先生、助けて下さった内弟子仲間の篠崎さんにも感謝いたします。そして家族のように接して、腹ペコの時に食べさせて下さった道場長の奥様、また実代子さんにはひとかたならない感謝の気持ちで一杯です。一緒に稽古して下さいました道場生の皆さん、ありがとうございました。

最後にこの「人生に一度の経験」に対し皆様に心よりお礼申し上げます。